

4 当日の実施状況について

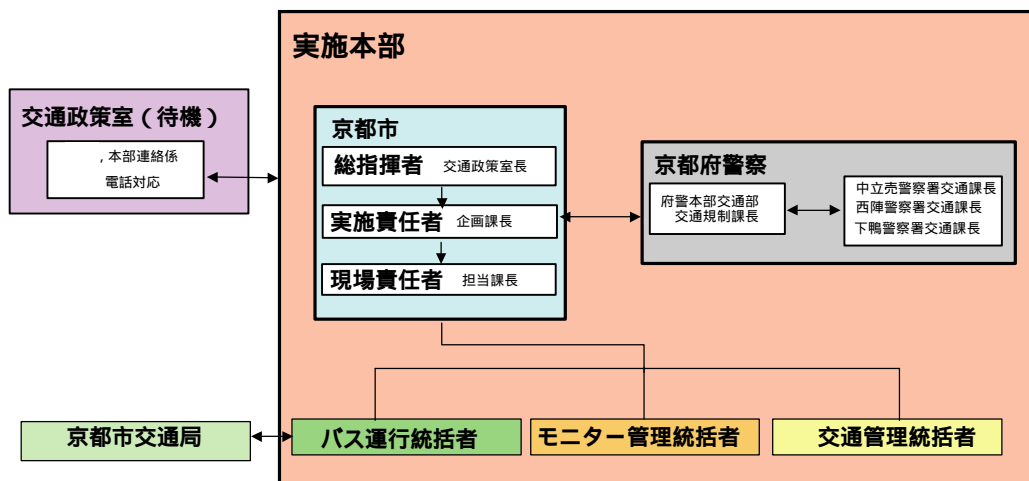
(1) 実施体制

- 京都市都市計画局交通政策室長を総指揮者とする「LRT交通社会実験現地実施本部」を、北野天満宮交差点付近に設置した。
- 本市の実施体制は以下の通りであり、京都府警察と連携を取りながら、安全かつ円滑な実験の実施に努めた。

本市職員（都市計画局及び交通局）	72名
ガードマン	210名
違法駐車等防止指導員	4名

- 京都府警察からは、主要交差点を中心とした多数の警察官及び駐車監視員の配置など、全面的な支援を受けた。

交通社会実験 本部組織体制



- 交通社会実験に関する問い合わせ等については、京都市交通政策室を担当窓口とした。実験実施中にあった市民からの苦情や問い合わせ等について、担当者が必要に応じて直ちに現地本部と連絡を取り、処置を講じた。

(2) ガードマンの配置状況

- 交通社会実験の円滑な運営や自動車交通に伴う混雑の緩和等を図るため、今出川通を中心にガードマンを配置した。当日、各ガードマンが担った役割は以下の通りであった。

	役割	配置位置
全てのガードマンが担当した業務		
ア	カラーコーンの管理 駐停車自粛の啓発	
配置位置に応じた業務		
イ	右折車両の誘導	信号交差点付近
ウ	路線バス停車時の直進車両の誘導	市バスのバス停付近
エ	細街路から流入する車両の誘導	細街路との交差点付近
オ	実験バス以外の車両の実験バス専用レーンへの進入防止	信号交差点付近
カ	乗客・歩行者の誘導	横断歩道がある信号交差点付近
キ	すべての信号が赤の時ににおける車両の交差点への進入防止	烏丸今出川交差点付近

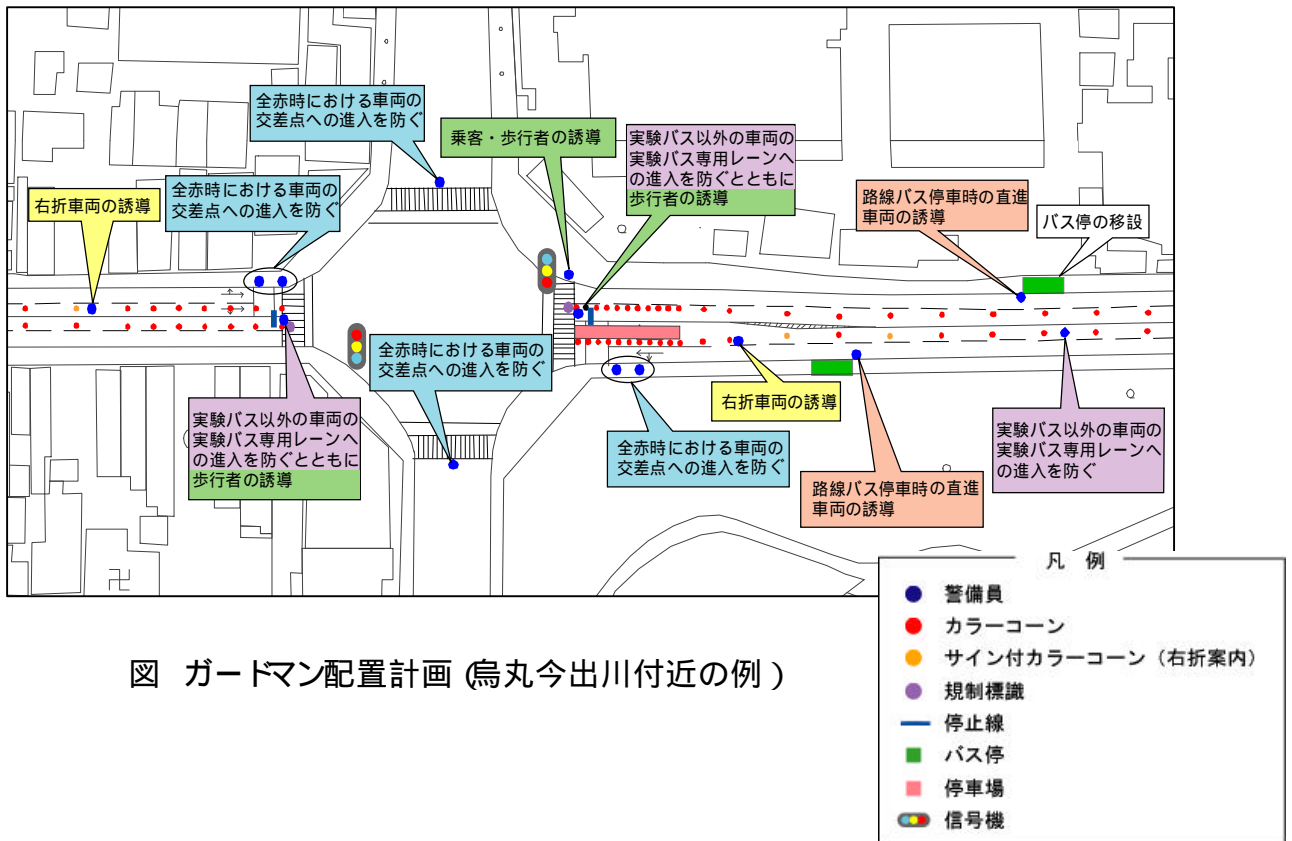


図 ガードマン配置計画 (烏丸今出川付近の例)

(3) 実験中の迂回及び駐停車の自粛への協力要請

- 実験当日は、事前に設置した立て看板の上から「今出川通実験中 迂回にご協力を」と記した看板を貼付し、社会実験が実施中であることを周知するとともに、迂回の協力を要請した。
- また、周辺道路から今出川通に流入する自動車交通を抑制するため、主要交差点（6箇所）に、今出川通以外への迂回の協力をお願いするプラカードを掲出した。
- このほか、今出川通では、駐停車の自粛を呼びかけるプラカードを掲出し、理解と協力を求めた。



写真 迂回への協力をお願いするプラカード・看板の掲出



写真 駐停車自粛への協力を要請するプラカードの掲出

(4) 荷さばき車両対策

- 荷さばきを行う車両への対策として、今出川通沿道のコインパーキング等を借り上げ、臨時共同荷さばき場を3箇所設置した。なお、実験中の利用は4台であった。



図 臨時荷さばき駐車場位置 (●印)



写真 臨時荷さばき駐車場

- 商店等が多数並んでいる新町付近では、荷さばき対策を専門とするガードマンを配置し、臨時共同荷さばき駐車場への誘導等を図った。その結果、新町～烏丸間で、荷さばき車両の駐停車が通常時（実験前）と比較して大幅に減少した。

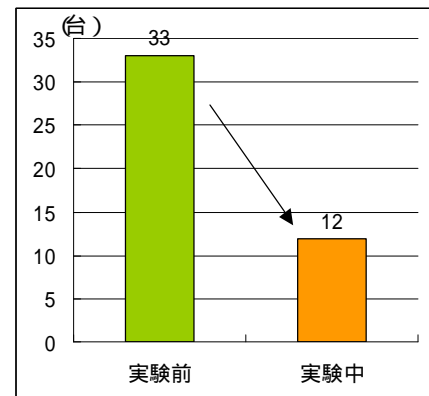


図 駐停車台数の変化 (新町～烏丸間)

(5) 当日の状況（本市職員等が現地で受けた印象等）

ア 今出川通の交通の状況

- 千本今出川以西は，東西，南北方向ともスムーズな流れであった。
- 堀川今出川以東は，烏丸今出川を先頭に常時渋滞しており，その影響で河原町今出川，川端今出川の西行も流れが悪い状況であった。

イ 荷さばき車両，市バス等の停車による影響

- 駐停車自粛の啓発にもかかわらず，実験中，一部運送業者が荷さばきを行ったことから，後続の一般車両の通行に影響を与えていた。
- 市バスやタクシーが乗降のために停車している間，後続の一般車両の通行ができなくなるなどの影響があった。
- 実験中に緊急車両（救急車）が通過する場面があったが，緊急時対応マニュアルに従い，ガードマンの指示により，一時的に実験バスの通行を止めた上で，緊急車両を優先的に実験バス専用車線に誘導する等の対応を行った。

ウ 市民の反応

- 迂回をお願いする看板やプラカードを見たドライバーの多くが，今出川通への進入を控えるなど，概ね協力的であった。
- 実験当日，現場では「L R T導入に賛成である」といった好意的な意見をいただく一方，「廃止した市電をなぜ復活させるのか」「今でも渋滞しているのにL R Tが入ったらもっと渋滞する。」といったご意見や，「（自動車交通を）迂回させては実験にならない。」といった指摘があった。